

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	31402		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学習指導と学校図書館		担当者名	福政 武彦			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

資料等を用いる授業の前には、あらかじめ資料に目を通しておく。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり演習の内容について個人で再度行ったりして学習の定着を図る。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 25%、課題および提出物 25%、期末テスト 50%に基づき評価する。

<教科書>

<参考書>

文部科学省（2018/2/28）

小学校学習指導要領解説 総則編

東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。
2	学び方の指導の実際1	学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。
3	学び方の指導の実際2	図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。
4	学び方の指導の実際3	年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。
5	学び方の指導の実際4	新聞の活用の指導の仕方を理解する。
6	学び方の指導の実際5	インターネットの利用の指導の仕方を理解する。
7	学習指導に生きるブックトーク	ブックトークのやり方とその効用について理解する。
8	学習指導に生きるポップ	ポップの作成方法とその効用について理解する。
9	教科学習における学校図書館の活用1	国語科における学校図書館の活用について理解する。
10	教科学習における学校図書館の活用2	社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。
11	総合的な学習と学校図書館	総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。
12	学校図書館と合理的配慮	学校教育における合理的配慮の必要性和学校図書館の役割について理解する。
13	司書教諭と学校図書館司書の役割	学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。
14	これからの学校図書館の在り方	先進的な学校図書館の事例について理解する。
15	まとめ	期末テストと解説

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	21204		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語科教育法 I (基礎)		担当者名	井上 聡			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論や言語活動に関する討論・発表、および、技能統合型指導の計画・模擬授業実践を中心に進めます。事前課題で問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めましょう。学修成果として、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生にとっても、将来の教師像を見通すうえで貴重な機会となるでしょう。

<授業の到達目標>

1. 英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。2. 協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。3. 未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

<授業の方法>

1. 小テスト (10分) 2. 協同学習① グループワークによる教え合い (20分) ※Google Meetによる画面共有 3. 解説+問いの提示 (20分) 4. 協同学習② グループワークによる成果物の作成 (20分) ※Jamboardによる相互評価 5. プレゼンテーションと相互評価 (15分) 6. 意見交換 (5分) ※授業関連の活動(事前課題の提出、小テストの受験、グループ課題の作成、相互評価等)については、Google Classroomで行います。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：キーワードの要約(ノートのスクリーンショットを提出) (90分程度) ※事前課題となるキーワードについては、章ごとに分け、Classroomに格納しています。復習：小テストの準備+Quizletによる用語集の作成 (90分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー⑤(情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている)と関連付けられています。単に知識を習得するだけでなく、汎用的技能(論理思考、協働性、ICT活用力等)を磨きつつ、英語科教育の課題を発見し、独自の解決策を提案できるよう、主体的に取り組みましょう。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前課題 20%、小テスト 20%、プレゼンテーション 20%、意見交換 10%、Quizlet 30%

<教科書>

JACET教育問題研究会(2017年11月30日)

行動志向の英語科教育の基礎と実践－教師は成長する－

三修社

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、シミュレーション(事前課題、グループワーク)
2	外国語教育の目的と意義	日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観
3	英語教育課程	教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性
4	第二言語習得と教授法	SLA研究からの知見、教授法
5	学習者論	言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者
6	英語教師論	教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長
7	プロジェクト学習①	個人プレゼンテーション
8	リスニングリーディング	基本概念とリスニング指導基本概念とリーディング指導
9	スピーキングライティング	基本概念とスピーキング指導基本概念とライティング指導
10	技能統合型の指導：インタラクション	基本概念、協同学習
11	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
12	文法指導語彙指導	基本概念と文法指導基本概念と語彙指導
13	授業計画に必要な知識授業実践	授業計画の前提・設定・観点・知識・教育機器授業案の作成、細案、作成
14	授業実践評価	形態、使用言語、模擬授業観点別評価、誤答分析、Can-doリスト
15	プロジェクト学習②	個人プレゼンテーション

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	21205		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語科教育法Ⅱ(応用)		担当者名	井上 聡			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、ふたつの教授法（コミュニケーション言語教授法とフォーカス・オン・フォーム）を折衷し、英語で英語を導入するためのスキルを習得します。実際の授業では、中学校の英語教科書の進度に準じ、デジタル協同作業を通して、All Englishの指導案を作成し、マイクロ・ティーチングと相互評価を繰り返し行います。英文スクリプトの正確さ、英語で授業を行う際の流暢さ、協働学習への貢献度、意見交換の質によって成績評価を行います。なお、この授業はブレンド型で行われますので、必ずPCを持参のうえ、臨んで下さい。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生にとっても、「英語で英語を教える」スキルを磨くうえで貴重な機会となるでしょう。

<授業の到達目標>

1. 事前学習（導入のための英文スクリプト）に取り組むことができる。2. デジタル協同学習を通して、適切な英文スクリプトを編集できる。3. デジタル協同学習を通して、英語による模擬授業のスキルを高めることができる。4. 教科書の内容に関するテスト（語彙・本文）で高スコアを残すことができる。

<授業の方法>

偶数週 英文スクリプトの編集+教科書テスト 奇数週 マイクロティーチングと相互評価 ※データの共有はGoogle Classroomで行います。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：英文スクリプトの作成（1時間程度）、模擬授業の練習（1時間程度） 復習：教科書テストの準備（1時間程度） ※課題の提出はすべてGoogle Classroomで行います。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目の到達目標は教育経営学科のDP⑥（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている）と関連付けられています。デジタル協同学習において貢献を果たしながら、模擬授業に積極的に取り組み、英語教師として相応しい資質・能力（英語力と指導力）を高めましょう。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習 30%、教科書テスト 20%、模擬授業 40%、意見交換 10%

<教科書>

笠島準一他（2016年3月11日）

NEW HORIZON English Course 1

東京書籍笠島準一他（2016年3月11日）

NEW HORIZON English Course 2

東京書籍笠島準一他（2016年3月11日） NEW HORIZON English Course 3東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、デジタル協同作業の導入
2	指導案の作成(1)教科書テスト	He is, 複数形, What, 3単現のS, 目的格, 現在進行形1-1, 1-2
3	模擬授業(1)教科書テスト	He is, 複数形, What, 3単現のS, 目的格, 現在進行形1-3, 1-4
4	指導案の作成(2)教科書テスト	can, 過去・規則変化, 過去・不規則変化, 過去・be動詞, 未来, 第4文型1-5, 1-6
5	模擬授業(2)教科書テスト	can, 過去・規則変化, 過去・不規則変化, 過去・be動詞, 未来, 第4文型1-7, 1-8
6	指導案の作成(3)教科書テスト	第5文型, 不定詞・副詞, 不定詞・名詞, will, have to, must1-9, 1-10
7	模擬授業(3)教科書テスト	第5文型, 不定詞・副詞, 不定詞・名詞, will, have to, must1-11, 2-1
8	中間試験	模擬授業教科書テスト
9	指導案の作成(4)教科書テスト	There is, 動名詞, ... er, ... est, more, most2-2, 2-3
10	模擬授業(4)教科書テスト	There is, 動名詞, ... er, ... est, more, most2-4, 2-5
11	指導案の作成(5)教科書テスト	受動態, 使役動詞, 現在完了・継続, 現在完了・経験, 不定詞(根拠), how to2-6, 2-7
12	模擬授業(5)教科書テスト	受動態, 使役動詞, 現在完了・継続, 現在完了・経験, 不定詞(根拠), how to3-1, 3-2
13	指導案の作成(6)教科書テスト	It ... to, 現在分詞, 過去分詞, 関係代名詞, 関係代名詞, 関係代名詞3-3, 3-4
14	模擬授業(6)教科書テスト	It ... to, 現在分詞, 過去分詞, 関係代名詞, 関係代名詞, 関係代名詞3-5, 3-6
15	期末試験	模擬授業総合評価教科書テスト(総合)

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	21306		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語科教育法Ⅲ(発展)		担当者名	井上 聡			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、中学校の英語教科書に準拠して、指導内容の種類と指導順位を理解し、詳細な授業案を作成し、模擬授業の体験を積むことです。したがって、この授業は、板書計画、パターン練習、有意味ドリル、インタラクティブで構成された指導案を作成し、学生・教員とのディスカッションや模擬授業を通して、英語教員としての資質・能力を磨き、教育実習に備えることとなります。学修成果としては、指導案(中学3年分)と模擬授業力を求めます。なお、この授業はブレンド型で行われますので、必ずPC持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生にとっても、授業設計を高めるうえで貴重な機会となるでしょう。

<授業の到達目標>

1. 事前課題(指導案)の作成・修正に粘り強く取り組むことができる。2. 他者との協働を通して、自身の指導案を改善することができる。3. 相互評価を通して、わかりやすい授業を展開できる。4. 英語教師になるための準備として、e-Learning教材に粘り強く取り組むことができる。

<授業の方法>

1. 事前課題の講評(15分) 2. 協同学習による指導案の修正(30分) 3. グループワークによる模擬授業(30分) 4. 相互評価(10分) 5. 意見交換(5分) ※授業中のデータの共有はすべてGoogle Classroomで行います。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習: 指導案の作成・提出(ノートのスクリーンショット)(2時間程度) 復習: 指導案の修正(30分程度) 日常: 英語力を高めるためのe-Learning教材(後日指定)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のDP⑦(子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている)に関連付けられています。教科書の内容を理解しつつ、中学3年間の指導内容の流れを学び、文法説明のスキルを磨きながら、英語教師としての見通しを強化しましょう。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、e-Learning教材 20%、模擬授業 30%、意見交換 10%

<教科書>

笠島準一他(2016年3月11日)

NEW HORIZON English Course 1

東京書籍笠島準一他(2016年3月11日)

NEW HORIZON English Course 2

東京書籍笠島準一他(2016年3月11日) NEW HORIZON English Course 3東京書籍

<参考書>

特に指定せず

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、モデル授業
2	中学1年生の教科書指導(1)教科書テスト(1)	1-2-2, 1-2-3, 1-3-1, 1-3-21-1, 1-2
3	中学1年生の教科書指導(2)教科書テスト(2)	1-4-1, 1-4-2, 1-5-1, 1-6-11-3, 1-4
4	中学1年生の教科書指導(3)教科書テスト(3)	1-6-2, 1-8-3, 1-9-1, 1-10-11-5, 1-6
5	中学2年生の教科書指導(1)教科書テスト(4)	1-11-1, 1-11-2, 1-11-3, 2-1-11-7, 1-8
6	中学2年生の教科書指導(2)教科書テスト(5)	2-1-4, 2-2-1, 2-2-2, 2-2-3, 2-3-11-9, 1-10
7	中学2年生の教科書指導(3)教科書テスト(6)	2-3-2, 2-3-3, 2-4-2, 2-4-3, 2-4-41-11, 2-1
8	中間テスト	模擬授業教科書テスト
9	中学2年生の教科書指導(5)教科書テスト(7)	2-5-1, 2-5-2, 2-5-4, 2-6-1, 2-6-22-2, 2-3
10	中学3年生の教科書指導(1)教科書テスト(8)	2-6-3, 2-7-1, 2-7-2, 2-7-42-4, 2-5
11	中学3年生の教科書指導(2)教科書テスト(9)	3-1-1, 3-1-4, 3-2-1, 3-2-22-6, 2-7
12	中学3年生の教科書指導(3)教科書テスト(10)	3-3-1, 3-3-2, 3-3-4, 3-4-1, 3-4-23-1, 3-2
13	中学3年生の教科書指導(4)教科書テスト(11)	3-4-4, 3-5-1-1, 3-5-1-2, 3-5-23-3, 3-4
14	中学3年生の教科書指導(5)教科書テスト(12)	3-6-1, 3-6-2, 3-6-3, 3-6-43-5, 3-6
15	期末テスト	模擬授業教科書テスト

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	21307		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語科教育法Ⅳ(実践)		担当者名	細井健、楠本信治			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、英語科教育知識への理解を深めること、学習者の言語技能を向上させるために授業力を高めること、および教材開発能力を高めることに取り組みます。実際の模擬授業や指導案の作成を通して、1授業・1単元を構成する力を養成します。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参のうえ臨んでください。

<授業の到達目標>

(1) 英語科教育知識を深めることができる。(2) 英語授業の導入・展開・まとめに応じた活動を実践することができる。(3) 授業の全体像を把握できる指導案を作成できる。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示）(2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答）(4) 省察活動（まとめと発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度）、模擬授業の準備（2時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科ディプロマポリシー7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」に関連づけられています。2年次配当科目「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」のステップ履修科目として位置づけています。特に中高英語教員を目指す3年生に対して、教科書の効果的な活用や指導案の作成など、英語授業を行うための技能を磨き教育実習に備える機会を提供します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業での取り組み・意欲 30%、模擬授業 30%、指導案作成 40%

<教科書>

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要および進め方
2	英語教授法の活用	英語教授法の効果的な使用について
3	教材の研究	ICTを活用した教材内容・指導内容・教科書の使い方
4	授業の構成	PPP, PCPP, TBLTなどに基づいた授業構成
5	教科書を用いた指導(1)	語彙・文法指導
6	教科書を用いた指導(2)	言語技能活動および指導
7	授業の指導目標	学習指導要領における外国語科の目標
8	授業の設計①	指導案の作成（単元の学習指導）
9	授業の設計②	指導案の作成（本時の学習指導）
10	授業の設計③	指導案の作成（評価の観点、目標と評価の一体化）
11	授業における評価	評価とテスト
12	模擬授業①	学んだことを生かした模擬授業
13	模擬授業②	学んだことを生かした模擬授業
14	模擬授業③	学んだことを生かした模擬授業
15	まとめ	授業全体の振り返り

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	31217		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語教授法特論		担当者名	細井 健			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

グローバル社会における英語教育の潮流やこれまでの教授法、日本の英語教育史や政策などを踏まえたうえで、どのように英語を教授し、授業を実践するかについて考えます。英語教師に必要な、単元の目標や計画を立て授業を構想する設計力、学習者の語彙・文法を強化し4技能やコミュニケーション能力を育成する指導力、学習者の取り組みや授業の成果を適切に見定め有益に還元するための評価力について学修します。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参のうえ臨んでください。

<授業の到達目標>

1. 国内外における英語教育の潮流や教授法などの知識や理論を理解している。2. 4技能やコミュニケーション能力を育成するために必要な実践的指導力を身につけている。3. 教授上必要とされる設計力・指導力・評価力を身につけている。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度）、模擬授業の準備（2時間程度） 復習：振り返りレポート（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科ディプロマポリシー7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」に関連づけられています。特に、中高英語教員を目指す3年次生に対して、教科書に基づいて、英語の教授法を学び、英語指導力を多角的に磨く機会を提供します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への貢献（意見の共有等） 20%、課題への取り組み 40%、レポート課題 40%

<教科書>

鳥飼玖美子ほか編著（2021）

よくわかる英語教育学

ミネルヴァ書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要および進め方 英語教授法の変遷と日本の英語教育
2	英語教授法の活用	英語授業における教授法の効果的な使用
3	文法訳読法と直接教授法①	教授法の理解 授業応用への視点
4	文法訳読法と直接教授法②	教授法を取り入れた授業実践
5	オーラル・アプローチとオーラル・メソッド①	教授法の理解 授業応用への視点
6	オーラル・アプローチとオーラルメソッド②	教授法を取り入れた授業実践
7	コミュニケーション・アプローチ①	教授法の理解 授業応用への視点
8	コミュニケーション・アプローチ②	教授法を取り入れた授業実践
9	第2言語習得理論	理論概要 学習-習得モデル 英語授業への応用
10	ナチュラル・アプローチ/TBLT/FonF①	教授法の理解 授業応用への視点
11	ナチュラル・アプローチ/TBLT/FonF②	教授法を取り入れた授業実践
12	内容中心教授法とCLIL	教授法の理解 授業応用への視点
13	認知言語学の応用	認知言語学の知見を援用した授業
14	アクティブ・ラーニングと協同学習	アクティブ・ラーニング、協同学習を踏まえた授業
15	まとめ	授業全体の振り返り

科目コード	53013		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校支援ボランティア		担当者名	奥山 優			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学ぶ。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。活動の記録を日誌として残し、成果と課題をレポートにまとめて最後に発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを確認しておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、記録に残しておくこと。(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学校支援ボランティアの在り方について学び、学校に出かけ児童・生徒の学習面や生活面での支援や指導を行うことを通して、教育経営学科のディプロマポリシーの7(子どもの未来に対する強い使命感と責任を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ボランティア活動への取組みの様子 40%、レポート及び発表の内容 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。
15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	51010		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(英語)		担当者名	細井 健			○		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っています。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとなります。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行います。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例が教材となります。事後指導を通して、教職に対する理解を求めます。

<授業の到達目標>

①事前指導においては、教育実習において必要な心構え、指導案作成の技術を身に付けます。②事後指導では、実習中に経験したことに基づいた授業の報告やディスカッションを通し、各自が目標とする教師像を確立します。

<授業の方法>

(1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション(模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動(まとめと発表)

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：模擬授業の準備、指導案の作成(2時間程度) 復習：振り返りレポート(毎回、2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。」に関連づけられています。中等教育(英語)に関する知識・技能を修め、次世代の教育者や指導者を目指す人を育成するための応用科目であり、特に、中高英語教員を目指す4年生に対して、教科内容を理解したうえで、授業を構成し実践するための基礎的な素養を身につける機会を提供します。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20%、指導案作成・模擬授業 50%、教育自習・実習報告 30% (一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合があります。)

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習に臨んで	教育実習の目的、心構え、準備
2	授業観察	DVD教材を利用した授業観察、授業分析
3	授業準備	教科書分析・指導案作成準備
4	指導案の作成(1)	指導案作成の手順
5	指導案の作成(2)	指導技術の工夫
6	模擬授業(1)	模擬授業を実施
7	模擬授業(2)	模擬授業を実施
8	模擬授業(3)	模擬授業を実施
9	模擬授業(4)	模擬授業を実施
10	事前指導のまとめ	事前指導で学んだ内容の確認
11	教育実習の報告①	実習報告とディスカッション
12	教育実習の報告②	実習報告とディスカッション
13	教育実習の報告③	実習報告とディスカッション
14	教育実習の報告④	実習報告とディスカッション
15	事後指導のまとめ	実習全体の振り返り

次世代教育学部教育経営学科中高英語教育専攻

科目コード	53012		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習(中学校・高等学校)		担当者名	細井健、森下裕三、赤松久美子			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業では、これまでに受講した授業と教育実習の振り返りを通してこれまでの学びの内容を確認し、英語教師としての自己成長を続けることのできる能力の習得を目指します。模擬授業、事例研究、新しい指導技術の実践を通して教育現場で必要とされる学級経営力、生徒指導力、英語教師として教育実践力を高めます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参のうえ臨んでください。

<授業の到達目標>

①英語力を高め自己研鑽をするなど『英語教師の成長』について考え見通しを立てることができる。②教育実習の経験を踏まえたうえで様々な教育課題を建設的に批判し、解決に向けての具体案を提示できる。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示） (2) グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3) ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4) 省察活動（まとめと発表）

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の事前学習（1時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、2時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科ディプロマポリシー7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」に関連づけられています。中等教育（英語）に関する知識・技能を修め、次世代の教育者や指導者を目指す人を育成するための応用科目であり、特に、中高英語教員を目指す4年生に対して、教育実習を経験したうえで、教育課題を考え、解決に向けて取り組む力を養う機会を提供します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

①授業への積極的な参加姿勢・グループ活動での貢献 20%、②模擬授業 30%、③課題・レポート 50%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教職実践演習とは	教職実践演習の目的、教師に求められる資質・能力と教育実践力
2	入門期の音・文字指導	アルファベットとフォニックスの指導
3	授業構成（1）	教授法の変遷と日本の英語教育
4	授業構成（2）	テスト作成・評価（CAN-DOリスト／観点別評価）
5	指導技術（1）	リーディング・ライティング指導
6	指導技術（2）	リスニング・スピーキング指導
7	生徒理解（1）	生徒指導と教育相談—エゴグラム作成と理解—
8	生徒理解（2）	生徒の問題行動に関する事例研究—いじめ・不登校・虐待を中心に—
9	生徒理解（3）	教師と生徒のコミュニケーション—教師のリスニングスキルの向上—
10	授業内容・指導方法	教科教育で用いられる様々な題材・指導方法・ICTの活用
11	授業形態	協同学習、ペア・グループワーク
12	英語史	英語教師が知っておくべき英語の歴史
13	学習者・教師論	動機づけ・自己効力感
14	自律的学習者を育てる工夫	授業で行う活動・家庭学習に求められる内容
15	まとめ	教育実践力磨き続けるために